

最終講義を始めました

教授 渡辺 俊一

私の定年にともない、渡辺研究室は今年度をもって閉鎖になります。定年といえば、最終講義。でも理科大ではあまりやらないから、と安心していたら、ちょっと風向きが変わってきました。

じつは今年の修士1年生4人は、選り抜きの精鋭部隊なのです。企画力、行動力ともに抜群なのはいいのですが、脅迫力も負けずにごいのです。

「先生、やらなきゃダメですよ。どうせやるなら、先生の研究人生の全体史を年代毎に総括してください。そこで分かったことは公開し、分からなかったことは反省して、シッカリ学の継承をしてから辞めてください」ときたものだ。

こんな脅しを嬉しがらる先生も先生ですが、こうして「連続公開シンポジウム 都市計画に明日はあるのか? (全5回)」を引き受ける羽目となりました。すでに第1回は9月3日、神楽坂の森戸記念館でおこない、さいわい好評でしたが、残る4回も目白押しです。特に第5回目は来年3月12日、野田キャンパスに会場を移して、渡辺研最後の大爆発が待ちかまえています。

さらに息つくひまもなく、第2の火矢が飛んできました。「大学院の最終学期では、先生の都市計画論をじっくり聞きたいです。いつもは、まちづくり論じゃないですか?」

という訳で、10月5日からの大学院講義は「都市計画の基礎理論」と題して、公開講座を兼ねて全11回開講となったのです。「都市計画とは何か」を基礎から明らかにしないと、卒業させてもらえそうもないのです。果たして3月まで体がもつか、心配ですが目下、体力づくりに精を出して準備中です。(ご興味のある方は、<http://www.rs.noda.sut.ac.jp/~hirake/indexj.htm> をご覧ください。)

渡辺俊一先生の経歴

1961年東京大学建築学科卒業。プエルトリコ政府勤務を経て、1964年ハーバード大学大学院修士課程修了。1965年東京大学助手。シェフィールド大学客員助教授及びカリフォルニア大学客員研究員を経て、1978年より建設省建築研究所室長・部長等を歴任。1990年より現職。ミシガン州立大学・ワシントン大学で客員教授。都市計画学会論文賞・同国際交流賞、建築学会賞、土木学会出版文化賞、不動産学会論文賞など受賞。主な著書等は『アメリカ都市計画とコミュニティ理念』『比較都市計画序説』『都市計画』の誕生』『市民参加のまちづくり』『市民版まちづくりプラン実践ガイド』



(渡辺研究室 バーベキュー・パーティ 拙宅にて、2004年5月24日)

講義棟および薬学部キャンパスの見学会

S45年卒 立見栄司

講義棟は理工学部キャンパス中央の記念図書館の運河側に隣接し、鉄筋コンクリート造7階建ての免震構造の建物である。エントランスを入ると正面にエレベータホールがあり、左手に最上階まで吹抜けの大空間がある。大空間には2階続きのエスカレータが交互に連なり、そのスケール感、躍動感が視界を楽しませてくれた。

平面的には、教室群が廊下を介して、エスカレータ、エレベータ、階段および洗面所から成るコア部をコの字型に囲む形で配置されており、総床面積は15,700m²である。教室は大小合わせて63室あり、その収容人数は60人~300人であり、最も大きい教室は階段教室となっている。総収容人数は約8,300人であり、理工学部全学科の講義はここで行われるとのことである。教室の設備としては、冷暖房、放送およびビデオ視聴装置などが完備されており、各自の机にパソコン用の電源が用意されている教室もある。

免震装置は積層ゴムと滑り支承の併用で、それぞれ34基および4基である。また、ダンパーはU型スチールダンパーが22個および鉛ダンパーが10個使用されている。

講義棟に引き続き、薬学部のキャンパスを見学した。キャンパスは旧運動場および薬草園に位置している。校門を背にアプローチの右手には食堂および大講堂を備える低層棟が、正面の5階建ての研究室および講義室棟に直交して食い込む形で配置されている。そして、それぞれの裏手には池と中庭風の広場が設けられており、造形的に心の安らぎを演出し、憩いとコミュニケーションの場となっている。食堂は、多くの大学の食堂で有り勝ちな殺風景さはなく、天井までの広いガラスを通して目に映る池の水面とその奥の建物との調和は実に心の落ち着きと安らぎを覚え、レストラン風の趣を醸し出していた。2階の大講堂は500人収容の立派なものである。



研究室棟の1階中央に吹抜けのホールがあり、その両側に研究室が配置され、合わせて26室となっている。各研究室には先生の研究室、準備室および実験室がセットとして備わっている。また、講義室棟は、平凡な片廊下式ではあるが、広いガラス面により屋外に対して視覚的に解放されている。そのため、廊下から視線を下ろすと中庭風の広場が目に入り、思わず学友を探して談笑の輪に入りたくなる雰囲気があった。

この見学会を通して、理工学部の4号館までの施設しか知らない1世代前の者としては隔世の感

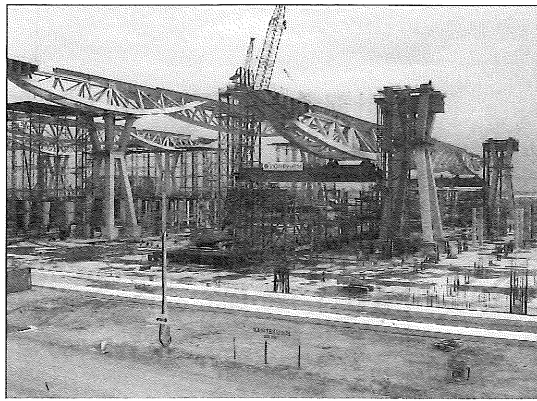
を抱き、このように恵まれた環境で学生生活を満喫できる後輩たちに羨ましさを覚えたのは私だけだったのであろうか。見学会の最後に薬学部キャンパスにて集合写真を撮影した。

タイ・バンコク国際空港旅客ターミナルビル建設工事の紹介

S59年卒 渡邊 秀幸、 S60年卒 宮地 克彰

タイ・バンコクでは、東南アジアのハブ空港を目指し来年9月末開港を目標に新国際空港の建設工事が進められています。本工事は旅客ターミナルビル・滑走路・管制塔・アクセスロード・熱源供給施設等のパッケージで構成され、プロジェクト全体の総工事費1250億タイバーツ(1タイバーツ=約2.7円)の内、約60%を日本の国際協力銀行(JBIC)が資金貸与したODA円借款プロジェクトとなっています。

新国際空港の中核を成す旅客ターミナルビルとコンコースビルは、世界的に著名なアメリカ人建築家ヘルムートヤーン氏の設計で、建屋には氏の設計テーマでもある非常にダイナミックで複雑な巨大鉄骨トラス(スーパートラス)の大空間構造が採用されています。また、合計延床面積 62 万 m²、建築費は日本円換算で 1000 億円超の国際空港一建物としては世界最大規模の工事です。本工事は 2001 年 10 月国際競争入札の結果、地元タイのイタリアンタイ社、日本の竹中工務店、大林組の共同企業体が落札し同年 12 月より本工事に着手しました。メインターミナルビルでは、合計 8 台あるスーパートラス(1 台約 1500 トン、全長 210m、柱間スパン 126m)を地上で地組・建方し、屋根レベルまでリフトアップして据え付けるリフトアップ工法で施工しました。また、屋根工事は工期が非常に厳しいため下部 RC 工事と同時施工が可能ないように、スカイライト等仕上材を据付け後に水平方向に移動させるトラベリング工法で施工しました。現在出来高は約 70%で、開港に向け急ピッチで建設工事を進めています。来年 10 月以降タイに旅行に行かれる方は新空港の出発ロビーで大空間屋根構造を満喫して下さい。



スーパートラスリフトアップ施工写真



メインターミナルビルとコンコースビルの全景(2004年8月20日)

NAA 賞受賞者の卒業後の状況

H15 年卒 菅原 愛夏

2004 年春号でご紹介に与りました、15 年度卒業生の菅原愛夏です。その号では、私の学生時代の台湾-日本間での交流活動が紹介されました。今回は卒業後、どのような活動をしているのかということで記事の依頼を受けました。

4 月から私は留学中にもお世話になっていた台湾の財団で働く予定でした。都市計画及びまちづくりの提案・評価を行ったり、プロジェクトを手掛けたりするところです。しかし財政状況が悪化し、正式な採用が 2 ヶ月、3 ヶ月…と延期になりました。今後の見通しも全く立たないということで、随分悩みましたが今回は台湾での就職を断念することにしました。そして、7 月末からイベントの企画・運営やスペースデザイン、プレミアムグッズの制作などを行う会社で働き始めました。直接まちづくりに関わるような業務はあまりありませんが(現在は再開発地区におけるプロモーション及びイベントと絡めたまちのイメージづくり等々を担当しています)、例えばイベントのプロデュースなどは、私がこれまでに行ってきたまちづくり活動とプロセスがよく似ていますし、まちづくりのみならず制作やデザイン、建築方面にも携わりたいと考えていた欲張りな私にはピッタリのところでした。

「若いうちに海外に飛び出して働く！」という野望は今回挫かれてしまいましたが、いつか実現できればいいな、と思っています。その日のために、現在も日々中国語の勉強に励んでいます。これからも、夢は大きく持って生きて行きたいと思います！

第4回総会開催される

事務局 市川 文久(S45年卒)

5月15日(土)野田建築会の第4回総会が開催された。
 野田に移転され薬学部と新築された講義棟の施設見学会を兼ね、野田で開催された。
 出席者(16名)及び委任状(168名)が会則の数に達し成立した。
 総会に先立ち見学会を同時開催したが出席者数は数名増加程度で相変わらず委任状が多く出席者数が伸びず今後の課題として役員で知恵を出し合ってゆきたい。
 総会は各事業部会からの報告と今後の計画案は了承され特に滞りなく終了し、新たな活動を開始した。
 総会終了後薬学部食堂で築理会の森本会長をお招きして懇親会を開催した。
 森本会長からは会員増や総会出席者増のいろいろな工夫のお話しをして戴き今後活用させて戴きたい。
 薬学部の昼と夜のキャンパスを見ることが出来たが一瞬どこか別の世界にいるような錯覚をしたのは私だけだろうか。

会計報告

会計部会 齋藤 喬(S45年卒)

<決算報告>

(単位:円)

	平成14年度	平成15年度
前期引継金	1,627,818	2,010,741
1. 収入	合計:1,280,773 年会費: 1,176,000 総会経費残金: 23,765 その他広告費等: 81,008	合計:1,126,003 年会費: 1,125,000 総会経費残金: - その他広告費等: 1,003
2. 支出	合計:897,850 一般経費: 897,850	合計:991,660 一般経費: 991,660
3. 次期繰越金	382,923	134,343
当期残高	2,010,741	2,145,084

<予 算>

(単位:円)

	平成16年度	平成17年度
前期引継金	2,145,084	2,357,784
1. 収入	合計:1,200,000 年会費: 1,200,000 その他: -	合計:1,200,000 年会費: 1,200,000 その他: -
2. 支出	合計:987,300 一般経費: 987,300	合計:1,692,300 名簿作成費: 856,400 一般経費: 835,900
3. 次期繰越金	212,700	△ 492,300
当期残高	2,357,784	1,865,484



発行 東京理科大学野田建築会 〒278-8510 千葉県野田市山崎2641

<http://www5a.biglobe.ne.jp/~sut-naa/index.html>

郵便振替 口座番号 00130-9-27644 東京理科大学野田建築会